

【事業者向け】 放課後等デイサービス自己評価表

作成日 2023/10/10  
事業所 富士あけぼの園

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	改善策
		数が多かった方に「○」をつけさせて頂いております。				
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			利用者各々がしたいことを、その時ベストなスペース、場所で行えるよう努めている	より良い場所がないか、日々確認をしていく
	② 職員の配置数は適切であるか	○			配置上過剰でも障害特性の兼ね合いで1人多くいてもらいたい時がある	職員の技術、工夫、支援力等を向上させていく
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			車椅子には対応出来ていないが、広い階段は利用者に喜ばれている。トイレが古い、エアコン設備が整っていない部屋がある	扇風機や、施設外のトイレの活用を行い、利用者満足度が下がらないよう工夫する
業務改善	④ 業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			日々職員間でカンファレンスを行い多くのスタッフが賛同できている	全てのスタッフの意見を抽出できるように確認を行う
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の要望を取り入れ、活動に取り入れようとしている	意向調査の数を増やし、より利用者のニーズに応えられるようにしていきたい
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○				
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		子ども支援連絡会などで相談出来ることを相談している	
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			カンファレンス等で支援方法を模索している。研修も行っている	より細かい項目での研修も行いたい
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			面談を行い計画を作成している	責任者が主となり行っている。別スタッフも送迎時などに得た情報はすぐに共有していく
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			絵カードやホワイトボードなど、視覚で捉えるツールを利用している	今後も継続していく。聞き取りやすい伝え方も考えていく
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			季節にあった活動を取り入れている。出勤日数の少ないスタッフからのアイデアまでは吸えていないとも感じる	以前に比べてプログラムについて話し合う機会が減った。立案のタイミングから広くスタッフに参画してもらえるようタイミングを図る
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			週ごとに強化するものを決めてプログラムを考えている	設定までは適切に行っても、時間や人員の兼ね合いで想定通りに活動できない時もある。別日に改めて行うなどの対応もしていく
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			利用者の様子や現状を話し合い、それに見合った支援が出来ていると感じる	長期休みに行った学習の癖付けが保護者に喜ばれたこともあった。継続してより良い支援を考えていく
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			カンファレンスで児童の様子を話し、内容に応じた支援方法を確認できている	長期休みのみ打ち合わせが全て行えない時もあるが支援中に時間を見つけ打ち合わせを行うなどが出来た。
	⑯ 支援終了後は、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○			翌営業日の支援開始前までには行えている	今後もカンファレンスやノートの活用を行い継続していく
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		カンファレンスノートやモニタリング記録を活用している	
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			カンファレンス以外で情報共有をしていく回数は減った	日々の隙間時間にも情報共有に努める
関係機関や保護者との連携	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○				
	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			責任者または施設長が必ず参画している	
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			学校との連携は出来ている。トラブル発生時にはすぐに連絡を取り合っている	
	㉒ 医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		緊急連絡先やかかりつけ医などの情報をまとめている	現状、医療ケアが必要な利用者はいないが、必要に応じて行っていく
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		必要に応じて実施している	保護者から情報を得ることはあるが先方に確認することは少ない為、必要に応じて行う
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			まだ1度しか前例がない	今後も必要な場面で行っていく
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			専門機関から家庭や学校の様子を把握し、支援内容などを変更出来ている	今後も継続していく
	㉖ 放課後児童クラブや児童館での交流、障害のない子どもと活動する機会はあるか	○			長期休みのみ児童館に行くことがあった	出来るタイミングを見つけて、今後も行っていく
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			積極的に参加している	参加スタッフがやむを得ず参加できない事情があれば他スタッフが参加していく
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳や送迎時に連絡を取り合っている	
㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			相談支援員にも相談を行いつつ保護者へのアプローチを必要な時に行っている		

